東京学芸大学附属世田谷中学校公開授業研究会 公開授業 第１学年 美術科学習指導案	授業者	岩本　フェリペ
	授業学級	１年Ｂ組（男子１７名, 女子１８名）
授業テーマ	対義語から発想を広げ、形や色のないものを形や色で表す表現を追求する。	

１．本時の目標

○　【知識】色彩の特性（補色や有彩・無彩色）を理解し、表現に生かすことができる。
　【技能】絵の具・筆の特性を考察し、意図に応じた扱い方ができる。

○　【思考・判断】選んだ言葉や色彩を基に主題を生み出し、豊かに発想を深めることができる。

２．本時の位置づけ

単元計画（　）内は時数

①絵の具の使い方習得（１）
②形や色のないものを形や色に変換する（１）
③対義語を選び、形や色であらわす。（２）
④【本時】絵の具で形や色を表現する（６）
⑤作品の「境目」を切り取り、台紙に貼る。（１）
⑥作品の相互鑑賞、考察。（１）

題材観

本題材は、中学校美術科１年生が制作する「最初の絵画作品」と位置付ける。テーマとする対義語を選び抽象表現に変換することで、感じ取ったことや考えたことなどを基にした発想や構想を練る。また、最終的に作品の「境目」を切り離して構成することで、全体と部分の関係を見比べて表現する。――A表現（１）-ア(ｱ)

抽象表現を行うことで、技能面での難易度を下げ、「巧拙」よりも「表現内容（主題）」を重視して作品をとらえる感覚を養う。また、比較的シンプルな形の組み合わせで描くことで、筆や絵の具の使い方に焦点をあてて技能の指導・評価を行う。

３．本時の概要

（１）「アントニム（対義）」について

抽象絵画の表現については、制作・鑑賞ともに広く受け入れられている題材である。

今回は「対義語」という要素を加えることで、知識や思考を生徒が意図的・自覚的に活用する場面を設定したい。

例えば、「熱い：冷たい」という主題であれば、「熱い→赤系の色、うねうねした形」と、言葉を表現に変換する。次に、（「熱い」の逆だから…）「冷たい→青系の色、カクカクした形」と変換することになる。このとき、色同士の関係（補色や対照関係）の「知識」を働かせたり、「うねうね」や「カクカク」という感覚的な「思考及び判断」を働かせたりする。こうして生徒が自分の表現に対して必然性をもち、言語化できる基盤を設けることで制作のふりかえりや学びの可視化に役立てたい。

（２）情報活用能力との関わり

（本時の中ではとりたてて活用の場面は設定していないが）美術科では情報機器を、「文房具のひとつとして使用する」ことを目標にしている。「文字や図に表したい」と思えば鉛筆などを取り出し、「色彩で表現したい」と思えば絵の具やパステルを取り出すように、発想構想を広げたいとき、「そういえばこの色の補色は何色だっけ」「以前気に入って保存しておいたは」と知識や記録を活用したいときなどにＩＣＴ機器を取り出し、発想の補強を行える道具としての活用を目指したい。

課題点としては、「生徒の内から湧き出るもの」を主軸にしたい場面が多いのに対して、ＩＣＴの活用によって「他者の感覚」が入ってきてしまいやすくなる点が挙げられる。アナログ⇔デジタルの「棲み分け」に関心を向け、効果的な活用方法の研究を推進していく。

４．本時の展開

◇主な学習活動　◆予想される生徒の反応	指導上の留意点
〈０．ルーティン活動〉蒐集ルーティン　（５分） ◇ロイロノートを使用して、自分の琴線に触れるものをコレクションする。（６月のテーマは「色」）	早めに入室した生徒にはルーティンの内容を周知し、待機時に取り組むことを許可する。
〈１．導入〉 ◇前時までの内容・本時の内容確認→本時の目標を伝える。 目標：「表現に“表情”をつける」 ◆「表情」という言葉に疑問をもつ。　（２分） ◇参考作品の「色の表情」を読み取る。 ◆色使いではグラデーションがあることに気づく。 ◆形においては、曲線と直線の差があることに気づく。　（８分）	・ふりかえりカードに記入させる →済んだ生徒から、作品や筆洗の準備を促す。 ・絵の具・筆の学習の時間に生徒自身が作成した見本を示し、「表情づけ」の既習事項を確認する。 ・表現の「優劣」ではなく「選択」を意識させる。
〈２．展開〉 ◇着彩を行う ◆時間内に着彩が終えられる範囲を検討する。 ◆混色用・着彩用の筆を使い分けて着彩を行う。　（２５分）	・下描きが未完成の生徒には、着差意を始められる部分からとりかかるよう促す。 ・タイマーをかけ、片付け開始時間の目安を示す。
〈３．まとめ〉 ◇生徒作品や制作風景から、「“表情”をつける」工夫を読み取る。 ◆筆運びによって絵の具の流れができることに気づく。 ◆水加減によって絵の具の伸び方が変化することに気づく。 （５分） ◇用具の片付け・ふりかえりカードの記入 ◆新聞紙やトイレットペーパーを使用して絵の具をふき取る。 ◆自分の活動を振り返り、成果と課題を記録する。　（１５分）	・タブレットを使用して生徒作品や制作風景を撮影し、提示機で示して生徒が直感的に理解できるようにする。 ・片付けとふりかえりカードの提出が済んだ生徒から順次下校するよう指示する。

完成作品イメージ
（参考作品）